

第10回

日本韓国語教育学会

創立10周年記念

国際学術大会

大会誌

日次 | 2019年 11月 8日(金)~9日(土)

会場 | 駐日韓国文化院(東京)

主催 | 日本韓国語教育学会

駐日韓国大使館 韓国文化院

共催 | 駐日韓国文化院 世宗学堂



在日コリアン・オールドカマーによる朝鮮語の呼称使用

— 朝鮮学校コミュニティを中心に —

權恩熙

要旨

조선학교를 다루고 있는 다큐멘터리 작품과 조선학교 수업을 녹음한 자료를 통해 재일코리안 올드카머의 조선어 호칭 사용 실태에 대하여 조사한 결과, 다음과 같은 점들을 새로이 알 수 있었다. (1) 조선어 호격조사 '-아/야' 를 붙이지 않은 '개인명 단독형' 을 호칭으로서 많이 사용한다. (2) 학생이 성인에 대하여 존경 접미사 '-님' 을 붙이지 않은 '직업명 단독형' 을 사용하는 것이 허용된다. (3) 조선민주주의인민공화국(북한)에서 일반적으로 사용되는 '동무' 및 '아바이' 를 통칭적 호칭으로서 사용한다. (4) 유소년층에서도 '형님' 이라는 호칭이 일반적으로 사용되고 있다. (5) 4세 이후 세대에서도 '할매' 라는 경상도 방언형 친족호칭이 사용되고 있다. (6) 남편을 변형매개친족호칭인 '아빠' 로 부르는 예가 발견된다.

1.はじめに

朝鮮学校という在日朝鮮人総聯合会(以下、朝鮮総聯)傘下の民族学校を中心としたコミュニティ(以下、朝鮮学校コミュニティ)では、学校の授業および同胞が集まる行事、朝鮮総聯傘下団体の公的な場などで未だに朝鮮語¹が使用されており、このような「擬似朝鮮語社会としての言語空間(植田2009:139)」は本国との交流がほぼ断絶されたまま半世紀以上も維持されてきた。さらに、彼らの朝鮮語は「方言使用如何を含む世代差や本国の親戚の共和国の規範語・韓国の規範語、あるいは社会の日本語の間で、多方面からの影響(植田2009:139)」を受けた重層性のある朝鮮語となっている。そのため、朝鮮学校コミュニティは社会言語学の諸分野で注目度の高い言語コミュニティとなっているが、コミュニティ内部へのアクセスの難しさからか、その実態についてはあまり明らかになっていない。そこで、本稿は彼らの特徴のある朝鮮語(以下、在日朝鮮語)の実態を解明するための

¹ 朝鮮半島において主に使用されている言語の呼称は「韓国語」「朝鮮・韓国語」「コリア語」などと様々であるが、本稿では調査対象者が用いている用語を尊重して「朝鮮語」と呼ぶことにする。

試みとして、まず呼称使用に注目したい。

2. 呼称の概観

省略

3. 先行研究

省略

4. 言語資料

表 1. 朝鮮学校の授業談話の詳細

	学年	科目名	担当教員の出生地	担当教員の本籍(1世の故郷)	担当教員の世代	時間
1	中級部	国語(朝鮮語)	愛知県	韓国 慶尚南道	3世	39分
2	中級部	国語(朝鮮語)	東京都	韓国 慶尚南道	4世	37分
3	高級部	国語(朝鮮語)	愛知県	韓国 慶尚南道	4世	43分
4	高級部	国語(朝鮮語)	愛知県	韓国 慶尚南道	4世	38分
5	高級部	社会	岐阜県	韓国 慶尚南道	3世	43分
6	高級部	物理	長野県	韓国 慶尚南道	4世	42分
7	高級部	物理	愛知県	韓国 慶尚南道	4世	42分

表 2. 映像資料の詳細

	放映	監督名	プログラム名	映像物の題目	取材学校	時間
1	2005	박기홍	SBS 스페셜 10 화	나는 가요 -도쿄, 제 2 학교의 여름-	東京朝鮮第2初級学校	61分
2	2007	박기홍	SBS 스페셜 83 화	도쿄, 제 2 학교의 봄	東京朝鮮第2初級学校	55分
3	2007	박기홍	SBS 스페셜 95 화	자이니치 60년 학교 가는 길	東京朝鮮第1初中級学校&東京朝鮮第2初級学校	53分
4	2007	김철민	KBS1TV 열린채널	민족학교에 가다	京都朝鮮第3初級学校	24分
5	2007	김명준	ドキュメンタリー映画	우리학교	北海道朝鮮学校	132分
6	2007	김명준	ドキュメンタリー映画 (DVD特典映像)	우리학교 -못 다 전한 이야기-	北海道朝鮮学校	37分
7	2014	이일하	ドキュメンタリー映画	올보 권투부	東京朝鮮中高級学校	86分

5. 研究結果

5.1 個人名呼称

個人名呼称の使用において目立つ特徴としては、「個人名単独呼称」の使用を挙げられる。例えば、彼らは「名前」「苗字+名前」「名前+동무」などの形を使用して互いを呼び合っており、呼格助詞「-아/야」の使用はわずか2件が確認されるのみである。さらに、例1と例2のように名前の最後の音節が「子音+母音+子音」の構造である場合も、口調を和らげるための朝鮮語の接尾辞「-이」を付けない点も非常に特徴的である。これには彼らの母語である日本語の影響が考えられ、日本語で呼格助詞を使用しないことと、呼び捨てはむしろ親密な関係を表す言語習慣であることが、彼らの呼称使用にも影響を及ぼした可能性がある。このような「個人名単独呼称」の汎用は、朝鮮学校コミュニティにおける在日朝鮮語の代表的な特徴と言える。

- 例 1) 하지 말아줘, 윤택! [初級部生徒(男)→初級部生徒(男)/雑談/寮の部屋]
例 2) 경일, 맛있어? [高級部生徒(男)→高級部生徒(男)/雑談/修学旅行(平壤)]
例 3) 성래, 가장 걱정되는 동무 누구? [教員(男)→高級部生徒(男)/雑談/教室]

5.2 称号・職業呼称

本言語資料で使用を確認できた称号・職業呼称は、「선생(님)」と「감독」の2つである。使用上の目立つ特徴としては、初級部の生徒が「職業名」のみで40代の男性(監督)を呼んでいることを挙げられる(例4、5参照)。韓国の場合、目下の人には必ず尊待接尾辞「-님」が付いた称号・職業呼称しか使用できない(박정운 1997:512)点を考慮すると、初級部の生徒が職業名単独で大人を呼ぶことは韓国における敬語使用習慣に反することになる。しかし、日本語には役職や身分などを表す名詞の後に付く「-님」のような尊待接尾辞が存在しない。そのため、目上の人に対してはただ「先生」「監督」などと呼ぶことが多く、「-님」と意味幅が類似している「様」は一般的に個人名の後に来る。したがって、この現象も日本語の言語習慣が影響を及ぼした例として見ることができよう。

- 例 4) 감독, 나를 찍어주세요! [初級部生徒(男)→監督(男)/会話/キャンプ場]
例 5) 감독! 무섭습니까? [初級部生徒(男)→監督(男)/会話/キャンプ場]

5.3 通称呼称

本言語資料で使用が確認できた通称呼称には、「동무」「아바이」「동포」などがある。使用上の目立つ特徴としては「동무」という呼称が様々な年齢層で幅広く使用されていることを挙げられる。「동무」という呼称は、現在の韓国において呼称として使用されることはほとんどなく、朝鮮民主主義人民共和国(以下、共和国)を連想させるということで回避されることばでもある。しかし、共和国の場合、「조선말대사전」において「동무」は「일반적으로 남을 무관하게 부를 때에 쓰는 말(一般的に他人を無関係に呼ぶ時に使用することば)」と説明されており、日常的に広く使われていると推測できる。朝鮮学校

の教科書は共和国の文化語を基準としているため、国語(朝鮮語)の教科書にも「동무」という呼称がよく登場するが、その影響を考えられる。

- 例 6) 예, 순실 동무! [初級部生徒(女)→初級部生徒(女)/雑談/キャンプ場]
例 7) 구호를 부르겠습니다, 동무들! [高級部生徒(男)→高級部生徒(男女)/掛け声/教室]
例 8) 신성봉 동무! 前日に比べたら抑えたね、ね? [父母(女)→初級部生徒(男)/会話/運動場]

次に、「아바이」という呼称の使用も目立つ。朝鮮学校コミュニティにおいて「아바이」という呼称は、高級部の生徒が平壤に修学旅行に行った際に中年男性のガイドに対して使用していることが観察される(例9参照)。韓国では中年男性を呼ぶ際に「아저씨」という呼称を用いるのが一般的であることを考えると、非常に特徴的であると言えよう。参考までに、共和国の辞書である「조선말대사전」では「아바이」を「年配の男性を親しく呼ぶことば」と説明している反面、「아저씨」は「①父と同じ世数の男性を呼ぶことば」と「②姉の夫を呼ぶことば」としか説明しておらず、その意味が韓国とは異なっていると見られる。朝鮮学校のコミュニティでもそのような共和国の影響を受け、「아바이」が「아저씨」よりも広く使用されているのであろう。

- 例 9) 아바이, 고맙습니다. [高級部生徒(男)→修学旅行ガイド(男)/会話/修学旅行(平壤)]

その次に目立つ特徴としては、生徒たちが学校の先輩や撮影監督などに対して「형님」と呼んでいることを挙げられる。韓国でも「형님」という呼称は使用されているが一般的とは言えず²、話し手が年配である場合や年齢差が大きい場合、暴力団を真似ていたずらっぽく言う時のみに使用されることが多い。このことを考えると、例10と例11のように年齢差が大きい学校の先輩や目上の人に対して「형님」という呼称を用いるのは、朝鮮学校コミュニティ独特の言語現象であると言える。

- 例 10) 명준 형님, 이거 평양에 있습니까? 우리나라에? [初級部生徒(男)→監督(男)/会話/教室]
例 11) 고3 형님들, 우리나라 잘 갔다 와 주세요. [高級部生徒(男)→高級部生徒(男)/会話/廊下]

5.4 親族用語呼称

本言語資料で確認できた親族名称呼称は「아빠」、「엄마」、「아버지」、「어머님」、「할매³」の5つである。この中で方言型親族名称呼称は慶尚道方言の「할매」のみであるが(例12参照)、在日コリアン・オーールドカマー1世の出身地の中で最も多いのが慶尚道であるため、その影響が残っている。このように方言形の親族呼称が4世、5世まで残っていることに関して、以下の宋基燦(2013:54-55)の記述が参考に値する。

「これは「民族意識」や「民族教育」の影響だというよりは、幼い頃から頻繁に使用してきたためであろう。生活の中で自然に習得したので、幼い頃はこのような呼称を日本語だと認識したりする

² 홍민표(1997a, 1997b)でも、家庭内での「兄」に対する呼称として、韓国男子学生の88.8%が「형」を、5.1%が「형님」を使用しているとの結果になっている。血縁関係のない年上の人に対する呼称は調べられていないが、韓国で「형님」という呼称が一般的ではないことは推測できる。

³ 実際の発音は「ハンメ」に近い。

が、在日朝鮮人が日本語を完全に習得した後は、親族呼称を区別的に使うようになる。日本人には「うちのおばあちゃんが」という風に話すが、相手が同じ在日朝鮮人であることがわかった場合には「うちのハンメが」という風にわざわざ「ハンメ」を使ったりする。この場合「ハンメ」という単語はエスニック・アイデンティティを表出する象徴的手段として使われ、同時に話し相手である在日朝鮮人との同類意識と連帯意識を再確認する連結の輪としても機能している。」

例 12) 할매, 来い. 할매~ 수환 형님 来たで. [初級部生徒(男)→祖父母(女)/会話/家]

他に目立つ特徴としては、「(変形)媒介親族呼称(teknonymy)⁴」の使用を挙げられよう。次の例 13は、寮の舎監の家族がドキュメンタリー監督と初級部生徒を招待して食事する場面での発話である。自分の夫に対して「아빠」と呼んでいるが、これは呼称の子供中心的(tekno-centric)用法であり、媒介親族呼称が使用されていることがわかる。むしろ媒介親族呼称自体は日韓両国において使用されるが、媒介となる子供の名前を明示せずに「아빠(お父さん)」とだけ呼ぶことは日本でしか確認されない⁵。韓国の場合、「OO(의)아빠」のように、誰のお父さんであるかを明示するのが一般的である。本言語資料で確認された用例も、そのような日本語の使用意識に影響されているのであろう。

例 13) 아빤, こう出して. 아빤, お酒出し… 아빤がお酒… [寮の舎監の妻(女)→寮の舎監(男)/会話/家]

6. まとめと今後の課題

ドキュメンタリー作品と授業談話を利用し、朝鮮学校コミュニティにおける呼称の使用について調べた結果、親族呼称の広範囲に及ぶ虚構的使用(fictive use)が見られる点は韓国における呼称使用と一致していたが、次の点が異なっていることが明らかになった。(1) 朝鮮語の呼格助詞「-아/야」を付いていない「個人名単独呼称」を多用する。(2) 生徒が中高年の大人に対して尊敬接尾辞「-님」が付いていない「職業名単独呼称」を用いる。(3) 共和国における通称的呼称である「동무」と「아바이」を使用する。(4) 幼少年層が「형님」という呼称を使用する。(5) 4世以降においても慶尚道方言形の親族呼称である「할매」が使用される。(6) 夫に対し、変形媒介親族呼称である「아빠」を使用する。

本稿では目立つ特徴を中心に実証的に記述することにとどまっているが、今後は各呼称の出現回数および話し手の年齢や職業、性別、社会的上下関係などの要因も考慮し、さらに分析を深めていきたい。

⁴ Cornell(1956)は、日本語の媒介親族呼称の場合は子供の名前といった媒介を明示しない点で一般的な媒介親族呼称とは違いを見せていることを指摘し、それらを「変形媒介親族呼称(modified teknonymy)」と命名している。

⁵ 조선일보・국립국어연구원(1996)によると、当時の都会を中心に夫を「아빤」と呼ぶ人が増えてきており、日本の影響を受けてこれまで曖昧だった夫婦間の呼称が新しく変わっているのであると分析している。しかし、より最新の국립국어연구원(2010)の調査を見ると、夫に対して「아빤」を使用する人は全体の1.9%に過ぎず、一般的な呼称として定着することはできなかったようである。

< 참고문헌 >

- 국립국어원(2010) 「표준 화법에 관한 국민의 국어사용 실태 조사」국립국어원.
- 박정운(1997) 「한국어 호칭어 체계」『사회언어학』5-2, 한국사회언어학회, pp.507-527.
- 조선일보・국립국어연구원(1996) 『우리말의 예절(상)』, 조선일보사.
- 홍민표(1997a) 「韓日兩國呼稱의 社會言語學的 考察—大學生들의 呼稱使用을 中心으로—」『일어일문학연구』30-1, pp.481-505.
- _____(1997b) 「한일대학생의 언어행동에 관한 계량적 고찰」『사회언어학』5-2, 한국사회언어학회, pp.277-299.
- 植田晃次(2009) 「『総論朝鮮語』の基礎的研究—そのイデオロギーと実践の重層性—」『「正しさ」への問い—批判的社會言語学の試み—』(野呂香代子・山下仁編著)第2版、三元社、pp.111-147.
- 吳秀賢(2010) 「ドラマにみられる呼びかけ表現の日韓比較—韓国ドラマ「冬のソナタ」を例に—」『日本語/日本語教育研究』1, 日本語/日本語教育研究会, pp.119-138.
- 宋基燦(2013) 「第2章在日朝鮮人の朝鮮語教育、その実態と意味—朝鮮学校の言語実践を中心に—」『ことばのなかの日韓関係—教育・翻訳通訳・生活—(立命館大学コリア研究センター叢書8)』(徐勝/小倉紀蔵編)、pp.47-78、明石書店
- Cornell, J.B and Smith, R.J.(1956), iMatsunagi: the life and social organization of Japanese mountain communityi, Two Japanese Villages. Ann Arbor: University of Michigan Press, pp.113-232.

權恩熙

(名古屋大学人文学研究科 博士課程)

beforebabel@hotmail.com